

たった1記事で23万PV

検索エンジン最適化

王道SEO



Search Engine Optimization

SEO（検索エンジン最適化）

SEOとはサーチエンジン最適化の略で、簡単に言うと、特定のキーワードで検索エンジンの上位表示を狙うための対策ということなのですが、私はこのSEOの後ろに"対策"という言葉をつけることに違和感を覚えます。

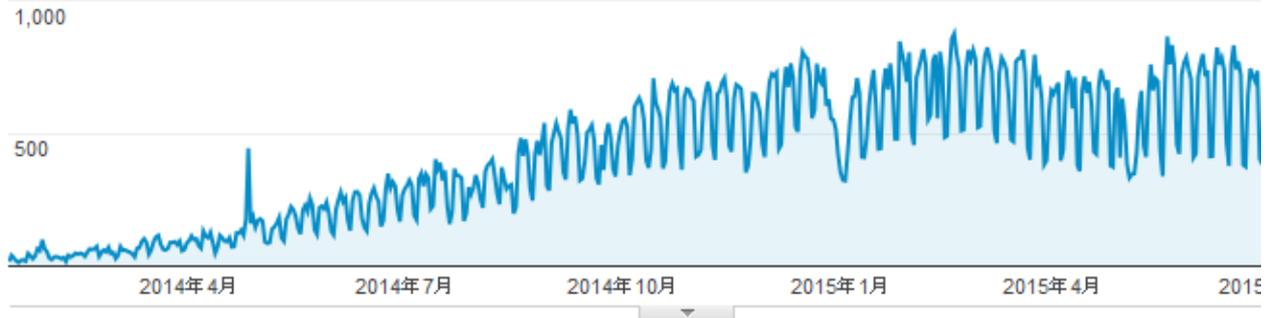
通称として使われているのでやむを得ない部分もありますが、SEOを日本語で言えば検索エンジン最適化なので、その後ろに対策をくっつけて《検索エンジン最適化対策》ってなんだかおかしいですよね？

実際にSEOは対策をする必要はまったくありません。単純に検索エンジンへ最適化をすれば良いだけなので実は考え方はとてもシンプルです。

ページビュー数 対 指標を選択

日 週 月

● ページビュー数



プライマリディメンション: ページ その他

グラフに表示 セカンダリディメンション

並べ替えの種類: デフォルト

1記事で23万PV

ページ	ページビュー数	ページ別訪問数	平均ページ滞在時間	閲覧開始数
	235,590 全体に対する割合: 18.91% (1,245,776)	218,368 全体に対する割合: 19.88% (1,098,348)	00:05:05 ビューの平均: 00:02:33 (98.91%)	201,235 全体に対する割合: 25.07% (802,639)
1. /web-design/clipping/	235,590(100.00%)	218,368(100.00%)	00:05:05	201,235(100.00%)

このように検索需要のあるキーワードで長期間上位表示されると、安定的なアクセスを集めてくれて、たった1記事でも累計で数十万、数百万のPVを稼ぐことは不可能ではありません。 (2016.3現在で35万PV更新中です)

また、私の運用しているブログ（スリムデザイン）ではphotoshopに関する記事が多いのですが、**10位以内に表示されているキーワードが数多くあります。**

クエリ数	クリック数	表示回数	CTR	掲載順位
photoshop 切り抜き	5161	19263	26.79%	2.3
フォトショップ 切り抜き	4642	17596	26.38%	2
フォトショ 切り抜き	1281	4936	25.95%	2
photoshop 文字 縁取り	879	1282	68.56%	1
photoshop 画像 切り抜き	648	2063	31.41%	2.1
想像力 鍛える	511	3937	12.98%	4.6
wordpress 使い方	496	12999	3.82%	6.7
photoshop 縁取り	470	739	63.60%	1
フォトショップ 文字 縁取り	380	553	68.72%	1
立体文字	351	1521	23.08%	1.1
画像 切り抜き	350	10296	3.40%	6.8
photoshop 3d	338	2415	14%	4.8
photoshop 合成	328	2652	12.37%	4.1
カラーハーフトーン	278	1366	20.35%	2.8
頭の回転テスト	255	530	48.11%	1
柔軟な思考	228	1214	18.78%	1.1
photoshop 3d 使い方	211	734	28.75%	1.9
俯瞰的	189	12176	1.55%	6.3
photoshop 3d 文字	166	497	33.40%	3
ポスターレイアウト	153	1501	10.19%	5
wordpress ポータルサイト	149	720	20.69%	2.8
photoshop チュートリアル	145	2255	6.43%	8.3
photoshop アメコミ風	120	266	45.11%	2.7
雇われない生き方	118	953	12.38%	7.4
フォトショップ 縁取り	115	184	62.50%	1
スリムデザイン	111	159	69.81%	1
123rf	105	12371	0.85%	4.5
フォトショップ テキスト 縁取り	102	156	65.38%	1
本質を見極める	95	546	17.40%	3.7
photoshop セピア	94	1245	7.55%	4.1
photoshop 写真合成	94	490	19.18%	3.6
web 素材 フリー	72	711	10.13%	5.9
雇われない生き方	118	953	12.38%	7.4
フォトショップ 縁取り	115	184	62.50%	1
スリムデザイン	111	159	69.81%	1
123rf	105	12371	0.85%	4.5
フォトショップ テキスト 縁取り	102	156	65.38%	1
本質を見極める	95	546	17.40%	3.7
photoshop セピア	94	1245	7.55%	4.1
photoshop 写真合成	94	490	19.18%	3.6
web 素材 フリー	72	711	10.13%	5.9
photoshop テクニック	70	1180	5.93%	9
素材サイト	64	1240	5.16%	3.8
photoshop 仕事	63	812	7.76%	4
photoshop 金色	63	353	17.85%	4.1
photoshop切り抜き	62	221	28.05%	2.3
photoshop 作品	61	499	12.22%	7.2
photoshop ポスター	60	363	16.53%	4.8

もちろん、対策などした記憶はありませんし、ましてスパム的な考えをもったことはありません。意識していることは、毎回自分の限界を超えられるくらい良い記事が作れるように取り組む（楽しんで）ことぐらいです。

しかし、なかには「**なんで自分のブログ記事は上位に表示されないんだ？おかしいんじゃないか？**」とSEOの本質を理解せず、無理やり上位表示するために対策をとろうとする人がいます。

そもそも、私たちがひとつのブログ記事を書く動機は、googleに評価されるためではなくて、自分以外の人に役に立つ情報を提供するためだったり、知識や経験を共有するためだったり、受け取ってくれるユーザーがいて初めてその記事が意味を持つわけですね。

情報を届ける相手はパンダでもペンギンでもなく人間、それも自分の考えや想いに**共感してくれるかもしれない未来の仲間**です。

それなのに、検索エンジンで上位表示さえできれば集客ができて儲けられると考えている人は今だに、《ステージ1》で留まっています。

ステージ.1

SEO対策をせねばっ！



- ❑ 被リンクを購入したり自演リンクを送る
- ❑ 業者を使ってSEO対策をする
- ❑ ページランクを上げるためにツールを使う
- ❑ 記事内のキーワードの出現率にこだわって記事を書く
- ❑ 高い費用を出してオールドドメインを購入して運用する
- ❑ その他、他人に迷惑のかかるスパム行為全般

ここに記載したようなGoogleの検索エンジンに対して策を講じるような行為は一切不要です。余計な作業が増えるだけで無駄です。

Googleは一貫して「こっちを見るな！」と言っています、情報を届ける相手、ユーザーの方へ視線を向けましょう。

ステージ.2

力を合わせて価値ある情報を
ユーザーに届けよう！

どうしよう…



- 適切なキーワードを入れたタイトルを考える
- ソーシャルメディアボタンの設置
- アイキャッチ画像を厳選する
- 1記事につき1メッセージ
- 複合キーワードを選定する
- meta descriptionを設定する

☑ 関連性の高い過去記事から新着記事（逆も）へリンク

☑ imgタグのalt属性を記述する

☑ レスポンシブ（モバイルフレンドリー）

☑ 関連記事一覧の表示

☑ 表示スピードの最適化

☑ コンテンツに適したデザインのテーマを選ぶ

ここに記載しているのは、私が必要だと思う検索エンジン最適化です。俗に王道と呼ばれるものです。

どのように施行するかは検索すれば出てくるので調べてみてください。実際に取り組むかどうかは「**なぜそれが必要なのか？**」「**なぜこれはするべきじゃないのか？**」ひとつひとつ自分の頭で考えていく必要があります。

これからどんどん新しい情報を目にしていけることにはなりますが、その都度正しいことを言っているのか、間違っているのか、必要か不要か、判断していきましょう。

しかし、いったい何を基準に考えて判断すれば良いか迷ってしまうかもしれません。その軸を持つことが王道のもう一歩先だと思っています。

ステージ.3

日本での検索エンジンのシェアは、YahooとGoogleだけで約90%です。

2010年以前のyahooは、他の検索システムや米yahoo独自開発した技術を採用していたため、ホームページを持っている事業者やブログ運営者はGoogleとyahooそれぞれに適したアプローチ（対策）をする必要がありました。



しかし、現在のYahooはGoogleの検索技術を採用しているので、SEOは【検索エンジン最適化≒Google最適化】と言ってもいい状態で、Googleの動向だけを把握すればOKなので、ある意味では楽になっています。

しかもGoogleの検索エンジンは精度が素晴らしいので、価値あるコンテンツはほぼちゃんと評価されるので、努力が実を結ぶ良い環境が整っています。

ただ・・・ひとつだけ、

ここ数年、Googleもシステムでは排除しきれない低品質のコンテンツに対して、**手動でペナルティを実施**するようになりました。コンテンツの質を目視で判断するということ。

たとえば、掲示板に書かれた落書き的な言葉と、博士号を取得した人が書いた論文とではどちらがコンテンツの質が高いのか？もしくは低いのか？こればかりは、人間の目視で判断しようとした際に、**見る人の主観**が少なからず入ると思います。

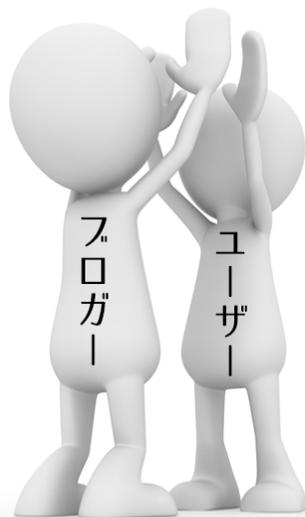


それでペナルティを与えてしまうのはもう審判を下す神の領域ですね、個人的にはyahooにも頑張ってもらい独占ではない状態のほうが健全な気がしますよね？

ステージ.1では、ユーザーの存在が無くGoogleに対して策を講じるという考え方ですが、ステージ.2ではGoogleに寄り添い一緒にユーザーを見るという考え方です。これが現在の**王道と呼ばれるSEO**だと思っています。

ただ私はステージ.3、Googleに寄り添うのではなく、私とあなたが情報や価値を共有するために、精度の高い有能なGoogleという検索ツールを活用するという考え方です。

価値ある情報を共有するために
Googleを活用しよう！



有能でっせ！



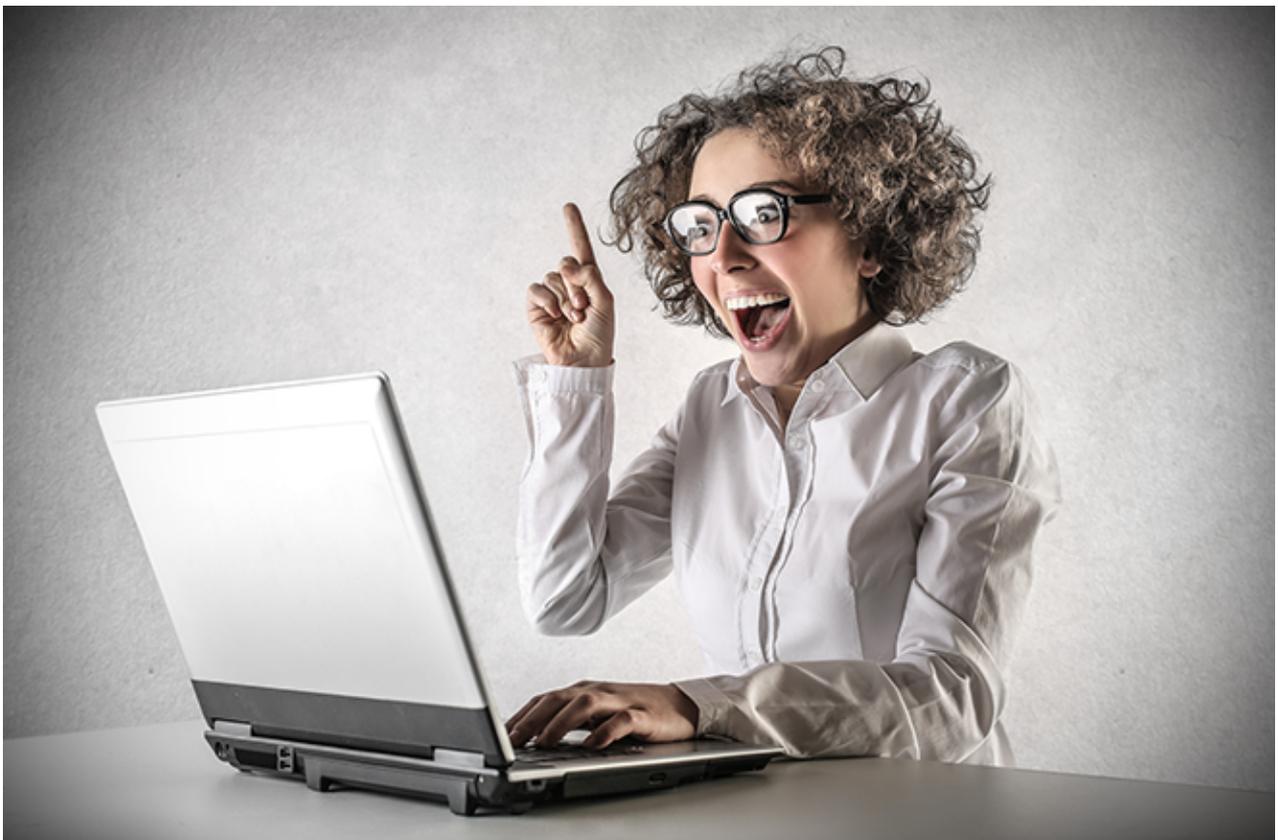
この考え方を持ったときに、世の中にあるSEOについての情報が有益なものか？それとも間違っているものなのか？の判断ができるようになり**自分の軸がブレることが無くなっていきます**。

SEOは学ぶものではなく気づいていくもの

例えば、レスポンシブデザインは必要か？という問いに関しては、スマホユーザーにも情報を届けようとするなら、文字が小さい、タッチしにくいといった不都合をできる限り取り除く努力が必要。

また、「[GoogleがYoutubeを買収したことでYoutube動画を貼っている記事がSEOに有利だ](#)」といった情報もあります。

私自身も、最近ではPhotoshopの技術を教える記事では動画を入れたりしていますが、SEOがどうか関係ありません。単純に文章と静止画だけではニュアンスを伝えきれない部分は、補足的に動画を使用した方が読者に伝わりやすくだらうと考えているからです。



読者が動画を見ている間は必然的に滞在時間が長くなりますし、ブログからYoutubeへ、逆にYoutubeからブログへ双方のアクセスと認知に繋がり、その結果、価値あるコンテンツだという判断基準のひとつになるかもしれないという考え方です。

もちろん無意味に余計な動画は貼りません。

meta descriptionは検索一覧上に表示され、ユーザーが記事を読むかどうかの判断基準になるので適切な文章を書いたほうがいい。

imgタグのalt属性の必要性は、視覚障害者などが音声ブラウザを使用するときその内容を読み上げるので、画像のイメージに適した言葉を記述する必要があります。

しかし、記事中に狙ったキーワードの出現率なんて読者にとってなんのメリットもありませんので考える必要がない。その変わり分かりやすい文章を心がける。

被リンクがあるから価値あるコンテンツになるといった考え方は不要です。

読者に分かりやすく新しい価値を一つ与えることができたなら、必然的にソーシャルで拡散され、いろいろなブログやサイトで紹介された結果、**自然に被リンクが付く**ということ。

ユーザーに焦点を絞れば、他のものは みな後からついてくる。 by Google

自分の価値を最大限市場に届けることを考えた結果、それでもGoogleが上位表示しなかったとしたら、他にソーシャルサービスを使うのか、メルマガを活用するのか、「届けなければいけない！」という使命感があれば、他の方法も視野に入れて考えるのは自然です。

いち企業のシステムに依存するのではなく、**自分の価値を市場に届ける"目的"のために有能なツール（手段）を活用する**という考え方が、私は本質に基づいたSEOだと思います。

著作権について

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。著作権はスリームデザインに付随し、著作権者の許可なくレポートの全部又は一部をいかなる手段において複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの内容は作成時点での著者の経験や考えをまとめたものであり、すべての人に対して同一の効果・影響を保証するものではありません。レポート内容を実践することで生じた損害についてスリームデザインは一切の責任を負いません。

このレポート内容の作成には万全を期しておりますが、万が一不正確な情報や誤り、記載の各サービスなどの仕様や料金変更がある可能性があります。著者の判断で訂正、情報の最新化、見解の変更を行うことがあります。

使用画像素材

© olly - Fotolia.com

© CGinspiration - Fotolia.com

© Trueffelpix - Fotolia.com